

2018.3.10

広島県：乳幼児期の自然体験活動の充実に向けた講演会

第2部 『子どもも大人も共に育つ自然保育

～広島県内の実践報告とそれぞれの園での工夫や課題について』

自然は偉大な先生

広島女学院ゲーンズ幼稚園

園長 高田憲治

1. 遊べる環境づくりの取り組み

① 緑いっぱいの園庭にしたい！

木を植えよう！ ののはなばたけをつくろう！ 畑や田んぼをつくろう！

② 水辺空間をつくりたい！

③ 森に遊びに出かけたい！

2. 自然から学んだこと

① 大きな木を植えるのはやめよう！

・人間の都合で時間をかけず、お金をかける林の幼稚園にはしない

② 自然に負荷をかけない

・持続可能でないものを創り出す愚かさ～人間の技術の限界を知る

③ 森での遊びとリスクマネジメント

・リスクとハザード 大人の安全管理と子どものコントロール能力

・マムシもオオスズメバチもマダニもいることをきちんと受け止める

・怪我をするのは決まって人工空間：机、ターザンロープ、ウッドデッキ等

3. 自然体の保育で、本当の 生きる力 を育む

① 不自然に自然を取り扱わない

② そこにない自然を求めるのではなく、そこにある自然に出会う

③ センスオブワンダー 自然は雄弁で、間違いのない教師

何が大切か 人はどう生きるべきか

④ 子ども自身が育つ力を持っている それを引き出すのが自然

⑤ 生きる力は、つながる力、たよる力

できることが増えることが育ちではなく、つながること、支え合うこと

自分にできることをどう使うか、何のためにそのできることを使うか、できないことをどう補うか、

自然の中の保育はええね！保育が楽しゅうなるわ

松本信吾（広島大学附属幼稚園）

1. はじめに

- ・本園の紹介
- ・自然保育導入の経緯
- ・現在の保育内容

2. 「森の達人（インタープリター）」の意義

- ・インタープリターとは
- ・本園における存在とその効果（特に保育者に対して）

3. 自然の中で保育を行うことによる保育者の変化

- ・自然物と人工物
- ・戸外と保育室内
- ・大きな自然に抱かれた保育（教育的スタンスの後退。子どもに yes を。苦手なものは、苦手なままで OK)

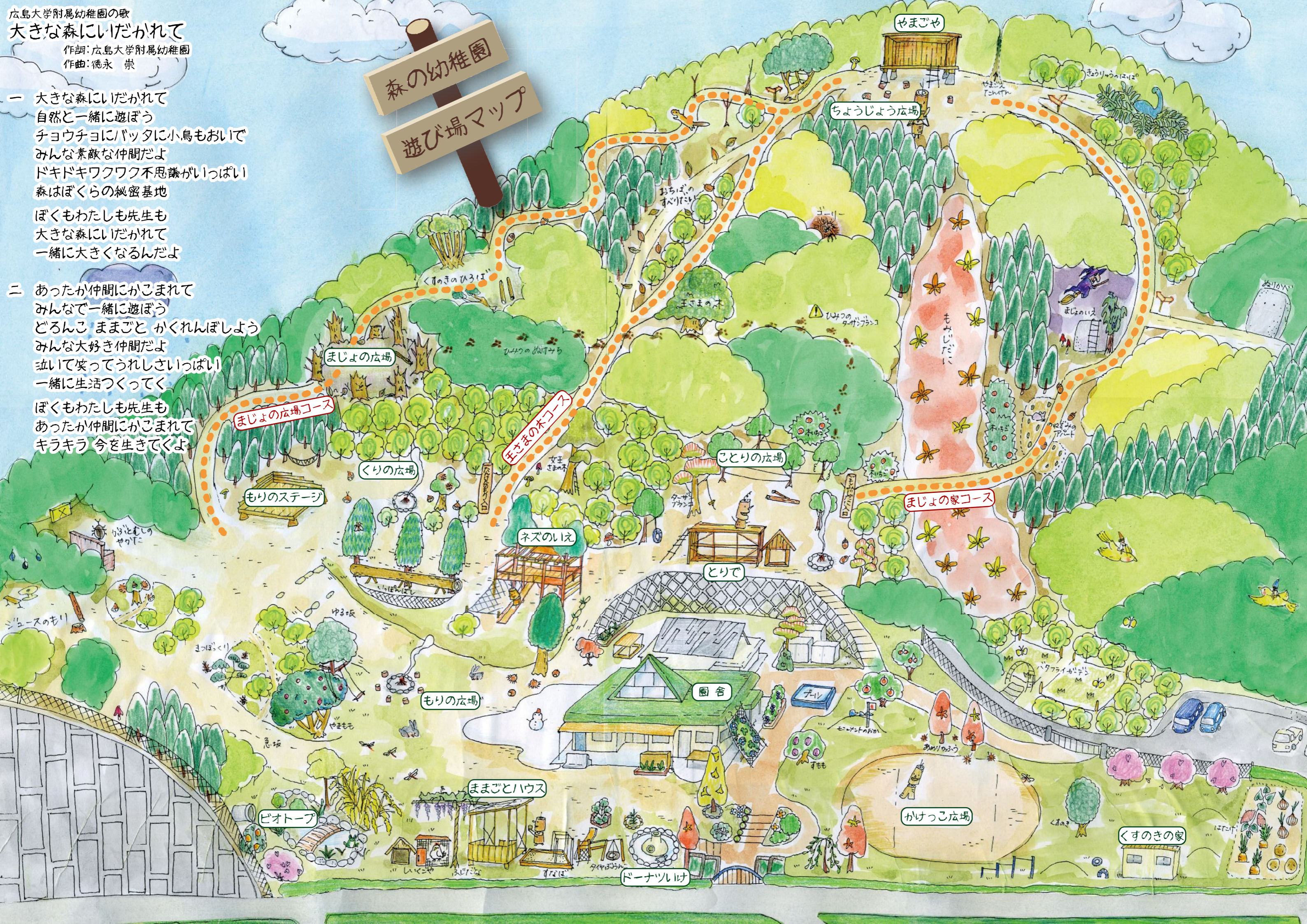
4. 自然の中での保育へのいざない

- ・身近な自然の中に出かけてみよう（特別のねらいを立てるのではなく、保育者自らがセンス・オブ・ワンダーを働かせる）
- ・インタープリターを活用してみよう

広島大学附属幼稚園の歌
大きな森にいだかれて
 作詞: 広島大学附属幼稚園
 作曲: 徳永 崇

一 大きな森にいだかれて
 自然と一緒に遊ぼう
 チョウチョにバッタに小鳥もおいで
 みんな素敵な仲間だよ
 ドキドキワクワク不思議がいっぱい
 森はぼくらの秘密基地
 ぼくもわたしも先生も
 大きな森にいだかれて
 一緒に大きくなるんだよ

二 あったか仲間にかこまれて
 みんなと一緒に遊ぼう
 どんろん ままごと かくれんぼしよう
 みんな大好き仲間だよ
 泣いて笑ってうれしさいっぱい
 一緒に生活つくって
 ぼくもわたしも先生も
 あったか仲間にかこまれて
 キラキラ 今を生きてくよ



『子どもも大人も共に育つ自然保育
～広島県内の実践報告とそれぞれの園での工夫や課題について』

みどり会の保育園の実践報告

社会福祉法人みどり会

みどりの森保育園 園長 中川宏美

みどりの森みらい保育園 園長 溝上郁子

1. 自然体験に関する考え方

子どもたちは、広い園庭や散歩先の公園など自然の中で遊び、草花・虫・光と影などの「本物」とふれあいます。その時、子どもたちは、色・匂い・音・味わい・感触という五感をフルに活用しています。

このような経験が、就学後に「思考力・判断力・表現力」という名の枝を強く大きく張りめぐらせるための「根っこ」をたくましく育てていきます。

保育士は、「ゆったりとした時間と空間」の中でおおらかに子どもたちを見守り、子どもが「いやだ」「こうしたい」と自分の気持ちや思いを素直に表現できるように、そして、子どもが自分で考え判断し行動できるように保育することを大切にします。

2. 保育園の自然環境

3. 保育園の四季

4. みどりの森みらい保育園の取組み

- 1) 歩く（散歩）
- 2) 現地調査
- 3) お散歩マップ
- 4) 散歩会議
- 5) 園バスの活用
- 6) 年長（非日常の園外活動）

5. みどりの森保育園の取組み

- 1) 保護者支援
- 2) 地域との交流
- 3) 幼保小連携

みどり会の保育園の特徴

保育の基本方針

- ①子どもたちが、第二の生活の場として安全にのびのびと生活でき、**本物に触れながら遊びに夢中になれる**人的・物的環境をつくります。
- ②子どもたちが、相手を思いやる**共感能力**、経験と結果をつなぐ**予知能力**、自分は自分でいいと思える**自己肯定感**を獲得するよう援助します。
- ③子ども**自らが生き生きと活動すること**を通じて、**生きる力（望む力、選ぶ力、決める力、考える力）の根っこ**を育みます。

子どもたちは、広い園庭や散歩先の公園など自然の中で遊び、草花・虫・光と影などの「**本物**」とふれあいます。その時、子どもたちは、色・匂い・音・味わい・感触という**五感**をフルに活用しています。

このような経験が、就学後に「思考力・判断力・表現力」という名の枝を強く大きく張りめぐらせるための「**根っこ**」をたくましく育てていきます。

保育士は、「**ゆったりとした時間と空間**」の中でおおらかに子どもたちを見守り、子どもが「いやだ」「こうしたい」と**自分の気持ちや思いを素直に表現**できるように、そして、子どもが**自分で考え判断し行動**できるように保育することを大切にします。

水・砂・泥遊び

様々な形を変える泥や水は最高の遊び道具であり、乳幼児期の心と体の発達を促す源となります。子どもたちが思いっきり遊びこめるよう、発達に応じた遊びを展開できる環境を用意します。



園外散歩

歩くことは体作りの基本と考え、0歳児からできる限り毎日園外に散歩に出かけます。様々な自然や本物の世界に触れ、いろいろな経験を積み重ね、子どもたちの生きる力へつなげます。



はだし保育

手や足は、「飛び出た大脳」と言われています。はだしで過ごすことは「脳の活性化」「運動能力の向上」「足裏の土踏まずの形成」「バランスのとれた強い体づくり」などに良い影響があります。



リズム遊び

ピアノに合わせて身体各部を動かすことにより、脳を刺激し、神経系と筋肉の協調性を養います。初めは見ていただけの子どもも次第にやりたい意欲が高まり、遊びに参加するようになります。



菜園での野菜作り

食べ物を通して五感の発達や、命の尊さ、感謝の気持ち、楽しさ、喜びなどの情緒が育ち、豊かな人間性がつくられます。子どもたちの「たべもの」は「心」と「からだ」を形成するものです。



わらべうた

わらべうたは、子どもにとって心地よいリズムに美しい日本語をのせて昔から歌い継がれてきたものです。わらべうたを楽しむ中で、「聞く」「話す」といった、ことばの土台もできていきます。



社会福祉法人みどり会 みどりの森保育園（広島市安佐北区）、みどりの森みらい保育園（広島市西区）、みどりの森ようこう保育園（廿日市市）の保育実践の様子です。保育内容等の詳細については、当会Webサイトをご覧くださいませようお願いします。

みどりの森保育園 広島

検索

<http://www.midorien-fuchu.jp/midorinomori/>